

構造特記仕様書

建築概要	
1) 工事名称 建築場所	道の駅拡張整備 施設整備工事 茨城県筑西市川澄字稲荷宿東1779番の一部、1779番1、1780番1、1781番1、1782番1、1784番1、1786番の一部、1787番の一部、1792番の一部、1793番、1794番、1795番、1851番、1852番2、1852番3 計15番
2) 工事種別	○新築 ・増築 ・増改築 ・改築
3) 構造種別	・木造(W) ・補強コンクリートブロック造(CB) ○鉄骨造(S) ・鉄筋コンクリート造(RC) ○ 壁式鉄筋コンクリート造(WRC) <確認申請対象外> ・鉄骨鉄筋コンクリート造(SRC) ・壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造(WPRC) ・プレキャスト鉄筋コンクリート造(PRC)
4) 階 数	地下 一階 地上 1 階 塔屋 一階
5) 主要用途	子どもの遊び場(スポーツ施設)
6) 屋上付属物	・高 架 水 槽 kN ・キュービクル kN ・広告塔 ・煙 突
7) 特別な荷重	・エレベーター 人乗(マシナールームレス ・ロープ式 ・油圧式) ・リフト kN ・ホイスト kN ・倉庫積載床用 N/m ² ・受水槽 kN
8) 積載荷重	・積載荷重区分図による
9) 付帯工事	・門堀 ・擁壁 ・駐輪場 ・機械式駐車場
10) 増築計画	・有() ・無
11) 構造計算ルート	ルート3 雲の屋根 <確認申請対象外> 仕様規定 思いやり駐車場屋根、トイレ棟、管理棟、すじ雲コリドー
12) 構造体の耐震安全性の目標	Ⅱ類 雲の屋根、トイレ棟、管理棟、思いやり駐車場屋根 Ⅲ類 すじ雲コリドー

共通事項

1. 標準仕様書/項目・特記事項の適用	
1) 本書は本工事の特記仕様書であり、本工事に適用する特記事項は下記による。 特記事項の適用は、項目の番号に○印の付いたものとする。 ○印の付かない場合は、* 印の付いたものを適用する。 ○印と○印の付いた場合は、共に適用する。	
2) 本書及び図面に記載されていない事項は、国土交通省大臣官庁官庁営繕部監修の公共建築工事標準仕様書(建築工事編)最新版(以下「標準仕様書」と略称)による。	
3) 項目欄の()の数字は「標準仕様書」の該当項目番号を示す。	
2. 設計図書の優先順位	
設計図面に相違がある場合の優先順位は次による。 1) 質問回答書 (2～5に対するもの) 2) 現場説明書 3) 特記仕様書 4) 図面 5) 標準仕様書	
3. 提出書類等	
1) 監督員の検査を受ける必要がある場合、現場内検査は検査予定日の一週間前までに、現場外検査は検査予定日の二週間前までに、連絡すること。 2) 本工事の施工に先立ち、各工事別に施工計画書および施工図を作成し、監督員の承諾を受ける。 計画書は三週間前までに、報告書は施工後、速やかに提出すること。	
施工計画書・報告書 ○工程表 ○仮設計画書 ○土工事施工計画書 ○山留計画書 ・山留計測計画書・報告書 ・杭工事施工計画書・報告書 ○鉄筋工事施工計画書 ○型枠工事施工計画書 ○コンクリート工事施工計画書 ○コンクリート打設計画書	○コンクリート調合計画書 ○鉄骨工事施工計画書・報告書 ○鉄骨工事工場製作要領書 ○鉄骨工事現場施工計画書・報告書 ○鉄骨製品検査報告書 ○鉄骨建入れ検査報告書 ○緊張工事施工計画書 ・木工事施工計画書(区分: 構造物) ・プレストレストコンクリート工事施工計画書
施工図 ○躯体図 ○鉄筋加工図 ・鉄骨工作図 ○型枠割付図	・鉄物製作図 ・PC鋼材配線図 ・デッキ割付図
3) 工事が完了したときは、下記のものを作成し監督員及び設計者へ提出する。 ○各階伏図 ○軸組図	○各断面リスト ○各詳細図

土工事

1. 根切り、山留め (3.2.1) (3.3)	
根切りにより工事現場内外に有害な影響を与えないよう、かつ土砂が崩壊しないよう関係法令等に従い、下記の工法を参考にし、請負者の責任において適切な、または山留めを設けて根切りを行うこと。また必要に応じて計測を行い、災害の防止に努めること。 山留め壁 ○法付けオープンカット工法 ・親杭横矢板工法 ・鋼矢板工法 ・ソイルセメント柱列山留め壁工法 ・場所打ち鉄筋コンクリート地中壁工法 支保工 ・水平切張り工法 ・アイランド工法 根切り底の検査 ○要 ・不要	

2. 排水 (3.2.2)	
排水により工事現場内外、根切り底、法面などに有害な影響を与えないように、下記の工法を参考にし、請負者の責任において工事を行うこと。 排水工法 ○釜場工法 ・ウェルポイント工法 ・ディープウェル工法 ・バキュームディープウェル工法 ・明渠・暗渠工法 ・リチャージ工法	
3. 埋戻し及び盛土 (3.2.3)	
埋戻し及び盛土の種類 ・A種 山砂の類 :水締め、機器による締固め ○B種 根切り土の中の良質土 :機器による締固め ・C種 他現場の建設発生土の中の良質土 :機器による締固め ・D種 再生コンクリート砂 :水締め、機器による締固め	

4. 建設発生土 (3.2.5)	
処理方法 ○横外搬出適切処理(汚泥) ・現場説明書による ・構内指定場所に堆積 ○構内指定場所に敷き均し	
5. 障害物 (3.2.1)	
* 工事に支障があるものは完全撤去	
6. 道路補修	
* 工事により破損した構内外の道路は完全補修	

7. 土質調査	
調査項目 * ボーリング ーm ー本 * 標準貫入試験(* 1.0m毎 ・) ○追加のボーリング調査は実施しない	

地業工事

1. 既製コンクリート杭地業 (4.3)	
材料 (4.3.2)	種 類
・ PHC杭 遠心力高強度プレストレストコンクリート杭	
・ SC杭 外殻鋼管付コンクリート杭	
・ PRC杭 プレストレスト鉄筋コンクリート杭	
・ 節杭	
性能及び曲げ強度等による区分等は、図示による。	
継手の工法 (4.3.6)	・アーク溶接 ・無溶接継手 : (工法名:大臣認定工法とする) 建築基準法に基づく指定機関において、性能を評価された工法
杭先端部の形状	・閉そく形(・ 平たん形 ・ 凹形) ・半開放形 ・開放形
杭頭の処理 (4.3.8)	所定の高さより低い場合及び杭頭を切断する場合は、設計担当者で協議すること。
NF対策	* なし ・あり * SLコンパウンド塗布 (位置は図示)
防食対策	* なし ・あり
杭施工法	・打込み工法 (4.3.3) (・ 打撃工法 ・ プレボーリング併用打撃工法) プレボーリング掘削深さ * 杭長 - ーm ・セメントミルク工法 (4.3.4) アースオーガーの支持地盤への掘削深さ * 1.5m ・ ーm 支持地盤への根入れ深さ * ーm ・ ーm ・特定埋込杭工法 (4.3.5) (建築基準法に基づく埋込み杭工法) ・認定工法 : ーm 杭材料 : ー 認定条件等 : ー
水平方向の位置ずれの精度 * 100 mm ・ ー	

2. 鋼杭地業 (4.4)	
材料 (4.4.3)	規 格 番 号 規 格 名 称 種 類 の 記 号
・ JIS A 5525 鋼管杭 SKK400、SKK490	
・ JIS A 5526 H形鋼杭 SHK400、SHK490M	
杭先端部の形状 (4.4.3)	・開放形 ・図示による。
杭先端部の補強 (4.4.3)	・「標準仕様書」図4.4.1及び表4.4.2による。 ・図示による。
継手 (4.4.5)	・JIS A 5525 (鋼管ぐい)による。 ・高力ボルト継手 (H形鋼杭) ・無溶接継手 : (工法名:) 建築基準法に基づく指定機関において、性能を評価された工法
溶接部の確認 (4.4.5)	* 「標準仕様書」4.3.6/4.3.7 に準ずる。
杭頭の処理 (4.4.6)	所定の高さより低い場合及び杭頭を切断する場合は、設計担当者で協議すること。 杭頭を切断する場合 ・ ガス切断

防食方法	・腐食代を見込む方法 ・塗装による方法 ・コンクリートを巻き立てる方法 ・電気防食による方法 ・なし * なし ・あり * SLコンパウンド塗布 (位置は図示)
NF対策	
鋼杭の施工法 (4.4.4)	・打込み工法 (4.3.4) (・ 打撃工法 ・ プレボーリング併用打撃工法) プレボーリング掘削深さ ーm ・ バイブロハンマー工法
・プレボーリング根固工法 ・特定埋込杭工法 (4.3.5)	・中掘り (工法名:) ・地盤改良 (工法名:) ・回転圧入 (工法名:) ・掘削併用回転圧入 (工法名:)
水平方向の位置ずれの精度 * 100 mm ・ ー	
3. 場所打ちコンクリート杭地業 (4.5)	
適用範囲 (4.5.1)	* アースドリル工法、リバース工法及びオールケーシング工法 (4.5.5) 場所打ち鋼管コンクリート杭工法及び掘込工法 (4.5.6)
材料その他 (4.5.4)	* 杭リブスによる。(S-○)
施工管理技術者 (4.5.2)	
アースドリル工法、リバース工法及びオールケーシング工法 (4.5.5)	施工法 * アースドリル工法 ・ リバース工法 ・ オールケーシング工法
場所打ち鋼管コンクリート杭工法及び掘込工法 (4.5.6)	施工法 場所打ち鋼管コンクリート工法 (工法名:) 掘込杭工法 * アースドリル工法 ・ リバース工法 軸部施工法 * アースドリル工法 ・ リバース工法 (工法名:)
杭頭の処理 (4.5.7)	
施工記録 (4.5.8)	

4. 基礎の設計支持力			
・杭の許容支持力	杭径 (mm)	許容支持力 (kN/本)	支持層 備 考
○直接基礎の許容支持力度	基礎形式	基礎深さ (m)	支持層 長期許容支持力度 (kN/m ²)
	独立基礎	伏図参照	砂礫層 79、95 (雲の屋根)、50 (コリドー)、40 (駐車場屋根)
	ベタ基礎	伏図参照	砂礫層 35 (トイレ棟、管理棟)

5. 試験杭及び支持力の確認 (4.2.2)	
試験杭の施工、報告書は「標準仕様書」4.2.5 による。 試験杭の仕様 ・打撃工法の支持力算定式 * 支持力算定式方法は設計者に確認すること。 ・特定埋込杭工法 * 「標準仕様書」4.3.5 による。 ・セメントミルク工法 * 「標準仕様書」4.3.4 による。 ・場所打ちコンクリート杭 * 「標準仕様書」4.5.5、4.5.6 による。 ・杭の孔径測定 ーヶ所 試験杭の位置 * 図示 ・最初の1本目	
6. 載荷試験 (4.2)	
・杭の載荷試験 (4.2.3)	試験位置 杭径 (mm) 試験種別 最大荷重 (kN) 備 考
	図示 * 鉛直 ・水平
試験の方法は「敷地調査共通仕様書 平成11年版」による。	
・平板載荷試験 (4.2.4)	試験位置 試験深さ (m) 箇所数 確認する長期支持力 (kN/m ²)
荷重制御 * 段階式載荷 ・段階式繰返し載荷	
試験の方法は「敷地調査共通仕様書 令和元年版」による。	

7. 砂利及び砂地業 (4.6.2) (4.6.3)	
材料 ○再生クラッシャーラン、切込砂利又は切込砕石とし、粒度は、JIS A 5001 (道路用砕石)による C-40程度のものとする。	
厚さ ○60 mm ・図示	
8. 捨コンクリート地業 (4.6.2) (4.6.4)	
材料 ○「無筋コンクリート」(6.14)による。	
厚さ ○50 mm ・図示	
9. 地盤改良 (4.6.2) (4.6.4)	
工法 ○深層混合処理工法 ・浅層混合処理工法 ・サンドコンパクション工法	
施工箇所 ○図示	
10. 床下防湿層 (4.6.2) (4.6.5)	
材料 * ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上、重ね合せ及び基礎梁際のみ込みは250mm程度とする。	
適用箇所 * 建物内の土に接する土間スラブ (土間コンクリートを含む)の直下。但し、捨コンクリートがある場合、捨コンクリートの直下とする。なお、断熱材がある場合は、断熱材の直下とする。	
砂利地業の上に直接床下防湿層を施工する場合は、防湿層の下に目つぶし砂を敷き均す。	

鉄筋工事

鉄筋工事は特記なき限り下記による。 日本建築学会 JASS5 -2018			
1. 異形鉄筋 (5.2.1)			
種 別	材 質	呼び径	備 考
○鉄筋	○SD295	D10-D16	
コンクリート	○SD345	D19-D25	
用棒鋼	JIS G 3112 ・SD390	D29-D35	
	・SD490		
・異形PC鋼棒	JIS G 3109 SBDP1275/1420 に準拠	U13、U16	認定品
・			
材料はJIS規格品とする。			

2. 溶接金網 及び 鉄筋格子 (5.2.2)		
線径 (mm)	網目 (mm)	適 用 箇 所
* φ3.2	100×100	防水押えコンクリート補強筋
* φ6	100×100	外壁開口ひび割れ防止筋 (雑壁のみ)
溶接金網はJIS G 3551の規格品とする。 鉄筋格子は材質JIS G 3112 又はG 3117 SD295Aの規格品とする。		

3. 鉄筋の継手 (5.3.4)	
接合方法	適 用 箇 所
○ガス圧接継手	D19以上の柱・梁の主筋
○重ね継手	ガス圧接以外の継手 (D19以上の壁・耐圧版の鉄筋)
・重ねアーク溶接	SRC造仕口部の帯筋
・機械式継手	
上記仕様と異なる継手を使用する場合は、監督員に確認すること。	
・機械式継手 及び 溶接継手の性能	
・SA級 * A級 ・B級	

4. 鉄筋のかぶり厚さ (5.3.5)	
○鉄筋の設計かぶり厚さは、鉄筋コンクリート構造標準図による。 ・耐久性上不利な箇所などの鉄筋のかぶり厚さは下表による。	
かぶり厚さ	適 用 箇 所
配筋基準図+10mm	
* 最小かぶり厚さは目地底から算定すること。また、コンクリート増打ち部分はかぶり厚さに算入しないこと。	

5. 帯筋	(別図2.2)
④ H形	
◦ W－I 形	
◦ SP形（スパイラル筋）	
◦ 丸形	
6. ガス圧接	(5.4)
ガス圧接技量資格者	
④ 手動圧接 （社）日本圧接協会がJIS Z 3881の試験に基づき認めた技量資格種別2種以上（呼び径D32以下）の者とする。	
◦ 自動圧接 （社）日本圧接協会に認定された者とする。	

7. 梁貫通孔補強 (別図7.1)	
補強方法 * 図示による。現場にて変更が生じた場合は、監督員の指示に従う。 補強箇所 * 該当設備図及び電気図による。 ・梁貫通位置図による。 現場にて位置・寸法の変更が生じた場合は、監督員の指示に従う。	
8. 防錆鉄筋	
防錆鉄筋 使用箇所: 性能: ーヶ月程度	